

## 第1回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会 会議要旨会議録

### 決定事項 議事録

- ・ 会長に畦地委員、副会長に見吉委員選出
- ・ 委員会全公開、当日傍聴希望者なし、会議録について要点筆記、発言委員の記載、議事録は会長、副会長に確認後HPなどで公開することを委員全員の挙手により承認

### 協議事項 議事録

#### 協議事項 「瑞穂市地域福祉に関するアンケート調査」調査項目について

#### 事務局・委託業者説明

「瑞穂市地域福祉に関するアンケート調査」調査項目について説明

#### 意見聴取・質疑応答 「瑞穂市地域福祉に関するアンケート調査」調査項目について

畦地会長：事務局からの説明について、各委員に意見を求めた。

福井委員：問8について、詐欺や投資詐欺などのお金についてのトラブルが多く、経済的な相談ができる窓口がない、そういう知識が地域の中でないことがそもそも問題であり、そういう設問があってもいいのではないかと。問13は、共助や自主性を行政が地域に求めていくなれば、もっと掘り下げると有意義な情報が上がってくるのではないかと。また、問20に関して、お金や詐欺の知識に関する相談について設問に入れられるといい。問21の人権・権利についても、経済的DVや暴言、行動制限を受けたり、ストーカーに遭っているといった虐待のグレーゾーンをどこに相談できるのか、そういう知識がつけられるようなことが、もう少しボリュームがあってもいいのではないかと。知っている、知らないだけで切り捨てるような部分ではない。問26の再犯防止について、意識調査から入ってみて、元犯罪者に対して地域の人ができるのかという設問が用意できるといい。問41も回答の中に、例えばゲートキーパーやハブで機能する方に報酬とか、方法論の1つとして回答例の中に組み込んでいくことも、アンケートで浮き彫りになるのではないかと。

委託業者：事務局や関係者と相談の上、追加できるところは追加していくことになるが、詐欺や地域で起こっている状況を拾い上げるような質問は必要である。経済的DVや暴言といったグレーゾーンのような事象に対して、相談先が分かればという意見もあったが、併せて検討できると思う。

林委員：調査対象について、市民で18歳以上の2,000人の人数の割り振りはどういう形でやるのか。回答率は38%。あまり難しいことをやっていると感じられるかもしれない。どういう2,000人の基礎ベースなのか。

事務局：抽出の方法については、年齢や性別、地域で無作為に選んで、2,000人の方に答えていただく。

林委員：今、人口が18歳以上だと3万人だとか。対象の3万人の中から全部で2,000人となるのか。例えば、20代から何人、40代から何人とか、そういうことではないか。

事務局（委託業者）：統計的には無作為に抽出し、その結果を地域全体の結果として捉える。年齢を決めてというより自然に無作為抽出することが基本である。前回のアンケートの結果をみると、60代以上が大体4割を超えて回答率が高く、多くを占めていたというのは事実。Webで簡単に回答してもらうことで、若い世代からも意見がもらえることが理想である。

太田委員：問41は、地域の課題を解決する方法ということで追加されている。前回アンケートの問12が問41に置き換わったが、前回と同じアンケートを取らないと推移や変化がみられないのではないかと。前回の問27「自殺を減少させるために重要だと思うことは何か」という設問が削除されているが、それは課題が見つかりこれ以上問いかける必要がない、推移を見定める判断をする必要がないのかどうか。この設問のデータは本文の現計画の64ページに掲載があるので、次の計画でも必要ではないか。前回の問28「地域の中で安心して暮らすために必要なことは何か」もなくなっている。置き換わるのが新しい問8だと思うが、問28は残しておいたほうが良いというのが私の個人的な感想だ。今回の問13。選択肢1は下の問13-1に回答がいき、選択肢2と3は問14にいくとなっている。当然、選択肢1は次の問13-1で答えるが、選択肢2と3は必然的に問14へ移るのではないかと。もし、これが必要であれば、問14の選択肢2と3は問15へとすべきではないか。要は一貫性がない。問31「瑞穂市社会福祉協議会をご存じですか」だが、これも選択肢3は問33へとすることが必要。それか問32を問31-1として枝番をつくるという形にするべきである。問32の選択肢15の項目「社会福祉協議会を知らない」は、上の項目で設問されているため、割愛していい。問17の設問文で「あなたは保育、健康診査で」となっているが、これは福祉で「診査」が正式な用語なのか。一般的には健康診断というのが通常ではないか。

睦地会長：内容面については、前回調査と今回調査が一致していない部分をどうするかということと、質問紙のバグのような形になると思うが、一貫していない。問14へといったり問15へと矢印が必要ではないかという話があったが、これについてはいかがか。

事務局（委託業者）：前回アンケートの問27の「自殺を減少させるために重要だと思うこと」は必要だという意見については検討することになる。問28についても、指摘の通り、新しい調査票の問8で、少し内容を追加して地域の課題を聞いている。前回との比較も有用ではあるので検討したい。問13で「活動したことがない」で問14へとしているのは、取っても問題はないがページを跨ぐため、強調している。問17については、健康診断が身近ではあるが、市の事業としては健康診査としている。問31で社会福祉協議会の活動を初めて知る人は、次の問33にいくということで承知した。問32の選択肢15「社会福祉協議会を知らない」はカットする。11ページの間41の質問が変わった理由だが、回答しやすいようにと思っていたが、比較できなくなるという意見もそのとおりのと思う。もう少し意見を頂戴したかったため具体的に記入することとした。

見吉副会長：細かい話だが、問39の①災害時の避難場所。できれば避難所と避難場所は違うので避難所としてもらいたい。その違いは、基本的に避難所は宿泊ができる場所、避難場所は単なる近くの公園ということに分かれているので、変えてもらうよう検討してほしい。

事務局：市民協働安全課にも確認して訂正したいと思う。

麓委員：前回との比較というよりは、そもそも6年に1回のこの福祉計画をやって、活動計画をして、それに基づいて動いていくというアンケートのはず。アンケートを取るのが目的ではなく、それに沿って物事を運んでいく、福祉を充実させていくためのアンケートだと思う。

まず一点は、令和9年からは特に子どもの権利も重点的にやっていきたいという話だったと思うが、それに対するアンケートがないのか。今回いろいろ制度が変わり、少しずつ福祉の法改正があったと思うが、その言葉を知っているかという質問は、恐らく知らないからそれに基づいたこういう事業をしていこうというための質問なのか。

事務局（委託業者）：認知度がどのくらい高いか低いか、現状把握といったところである。もし、あまりにも周知がされていないならば、その事業の周知啓発につながっていく。

麓委員：前回の時に、PDCAを回していこうという話だったと思うが、このアンケートを見てPDCAのCの部分が分からないので、次のアンケートにつながらない。だから、前回と同じアンケートであるはずもない。要は、既にできていると検証されていることは次の福祉計画に入れる必要性はないのではないのか。6年間のチェックを踏まえた上のアンケートのほうが本当は大事なのではないか。当然6年前とこれから6年後という比較も大事だが、例えば、コロナの時とコロナ明けの福祉は変わってきているし、前回は

かなり自殺というのも意見が出たので、今回、子どもの話が出ているのは、内容もそういったものに即さないといけない。そのためのアンケートであってほしい。

事務局：貴重な意見でありがたい。子どもに関する質問が少ないので検討したい。あと、できていることは入れる必要はないという意見も確かにそうなので、精査し削れるところは削った質問数にしたい。

麓委員：問17について、これからは自分たちで情報を入手するというのは市民にも大事だ。市役所の窓口があって、社会福祉協議会の窓口があるのに社会福祉協議会のホームページはないし、SNSは社会福祉協議会も10月から始まっている。市もLINEもインスタもやっているはずなので分かりやすくできないか。

事務局：検討する。

畦地会長：質問紙が出てきて、皆さん読み込んでいると思うが、どういう趣旨なのかということが明確になると、委員も分かりやすいのではないか。また委員から意見をいただきたいと思う。

新井委員：私も林委員と同じ意見で、このアンケートは18歳から2,000人。恐らく私が18歳だったら、このアンケートが来ても多分あまり理解できない。2,000人抽出すること、若い人の意見を取り入れるのもいい。でも、抽出方法を考えないと、高齢福祉の問題は18歳、19歳の方は10人に1人ぐらい回答するという感じだと思う。できれば、年代別で取ることは結構だが、何か工夫していい方法はないか。お年寄りばかりに偏ってはいけませんが、18歳からはどうか。私とその年代だったら多分出さないし、最後のほうは分からない。いろいろな言葉が出てくると思うが、その辺はアンケートをやる時に十分注意してやって、偏らないようにお願いしたい。

林委員：障がい者総合支援プランのアンケートを11月から1月にかけてやるが、今の話の理解度ではないが、精神の方とか知的の方に行っても分からない。障がい者のアンケートもこの場合のアンケートも、理解できなかつたら役所の窓口で全部聞くと。対象者の集約が大変難しい。アンケートは十分に重きを置いてやってもらいたいと思う。

畦地会長：実は私、質問紙調査は専門訓練を受けているが、今おっしゃることもよく分かる。それから無作為抽出でやって、例えば前回のアンケートの結果だと、問2の内容が70歳以上の方が27.3%、60代が18.5%。今、4ページを見ているが、高齢者が多くなってしまう。若年層は見て内容が分からないというよりは、面倒くさがって捨ててしまう

ようなところはある。しかし、無作為抽出でやるいいところは、そういう状況になっていることが分かる。要するに、前回の調査で、50代以上が半分以上占めていると、結局回答している若者はこれに一切興味がないということが分かる。次に、これはPDCAが回っているかどうかになるが、市で若者に対して福祉施策をこれまでの5年できちんとPRしてきたか、参画を促してきたかどうかが、無作為抽出をした結果、返ってきた年齢の比率でみえてくることにはなる。ここは考え方ではある。もし年齢別で分けると、重みづけをどうするか。結構ややこしいと思う。20代までの人が何%、30代までの人で何%とすると、相当工夫しないと逆に偏ったり変な回答結果が出てくる。その辺はテクニカルに難しいので、ここは無作為抽出でやるしかないのかなと委員の1人として意見を持っている。議長職なのに自分の意見を言って申し訳ない。時間が許す限り皆さんの忌憚なき意見をいただきたい。反映できるところは反映するというので、やっていければと思う。

東海委員：質問ではなく確認で、多分前回の計画の時も同じような質問をした記憶がある。この黄色い冊子の2ページを見ると、先程説明があったように、瑞穂市の地域福祉計画と下に、子ども・子育て支援事業計画、障がいの方のほうの計画が並んでいると思うが、私は児童養護ということもあり、子ども・子育て支援事業計画が令和9年度からのものに対してどうなっていくのかがすごく関心が高いところで。例えば、今回の計画は令和8年度末までに策定するとなっているが、その前にこの子ども・子育て支援事業計画は立てられているのか。もし立てられているのだとすると、大本があって下ができるのではなく、下が先にできているので、そこの下の計画の中に前回のアンケートといった実績が含まれたものが反映されてできているのか、気になる。今回アンケートを取っても、それがもうできているのであれば、今回の子ども・子育て支援事業計画には反映されていかないので、その辺りのことを確認したい。

事務局：こども計画の中に子ども・子育て支援事業計画が包含されているが、それを策定するにあたり、各学校で先生と一緒にタブレットでアンケートに回答してもらったり、いろいろな子どもの意見を集約してこども計画を作っているので、その計画のアンケートの結果もこの地域福祉計画の中にも盛り込められるのではないかとは思っている。地域福祉計画は上位の計画になるので、先程話題になっていたが、高齢者から障がい者の方、子どもという幅広い年代なので、無作為でないといけない。例えば、障がい者計画だったら障がいを持った方に直接アンケートを聞く。また、子どもは子どもということで、下位の計画で各々アンケートをして、その結果に基づいて計画を策定することになる。この地域福祉計画は、幅広い年代でアンケート、意見を聞くということにならざるを得ないと思っている。

東海委員：これは希望だが、昨年度策定されたこども計画は、例えば、私だと児童のほう

に関心があるので、それぞれ専門分野といったところもあると思うので、配信か読ませてもらえると、次に活かせる。もし令和9年度からのものには活用できないとしても、また次の時に意見を足せるので、できるのであればそれを共有することはよいこと。

服部委員：地域福祉サービスや市民がアクセスできるものが何かというのは分かりにくい。例えば子育てをしている人が子どもに困っていると、どこに行ったらいいのか。病院に行くのか、子ども施策をやっているところに行くのか、学校に行くのか、分かりにくいと思っているのではないか。例えば、親が認知症になっているのではないかといった時に、どこにアクセスをしたらいいのか。アンケートで、自分が困った時にアクセスする場所が瑞穂市にはこれだけあるということが分かっているのかが知れたらと思う。

委託業者：アンケートの5ページの問17で、情報の入手について聞いている。相談窓口を相談したい時に分かっているのかという質問で、それが分からない人もいると思う。この質問の中に、例えばどこに相談していいか分からない、どこに情報があるのか分からないという項目を加える。

畦地会長：他に意見、質問等はあるか。

一通り意見、質問は出尽くしたので、これで1回まとめに行きたいと思う。今回かなり多くの意見、質問、前回のアンケートと同じにしたほうがいいのか、同じにしなくてもいいとか様々あって、まだ揉んでいかなければいけないところがたくさんある。皆さんの意見をきいて、事務局もどうするかを考えてもらいたい。もう一度会合を開き、どう直ったのか、後はそれでいいのかどうかを審議したほうがいいのかもかもしれないと、今議長としては思っているところだ。事務局としてはどういう心づもりでいるか。会議をもう1回開くとなると、それは大がかりなやり方になるので、何かこういう具合に回していけばということがあれば、お知恵を拝借したいと思うが、どういう具合に進行していこうか。

事務局：アンケート調査は今年度中にやって、その結果の集計などあるので、スケジュール的にもう一度会合を開くことは、正直なところなかなか難しいと思っている。ただし、今回、非常に多くの意見をいただいたので、事務局でもう一度案を練り直し、いま一度各委員に文書で送り、またそれで意見があれば、郵送、電話、メールでもいただき、もう一度精査をして、会長、副会長に最後の確認をいただき、アンケートを実施できればと思うので、皆様に聞いていただければと思う。

畦地会長：会議をもう1回開くのは確かに超ハイコストになる。委員側がということも、日程なども当然あるが、担当課の都合もあると思うので、今、事務局から提案があったように、第2案を文書で送ってもらい、それに対してもう一度、各委員が思うところが

あれば返送して、またそれを最終案という形で恐らく会長、副会長で見て、それでゴーサインを出すという流れでいこうと思うが、委員の皆様いかがか。

(「異議なし」の声あり)

畦地会長：では、事務局担当課には大変お手数をかけて申し訳ないが、そのような形でさ  
らによい質問紙にしていって、よい調査をしていくということでいきたいと思う。

事務局：調査票案をお送りするときに、ここが変わったという資料もつけたいと思う。

畦地会長：大変助かる。スケジュール管理等も非常にシビアになってくると思うが、よろ  
しく願います。

それでは、意見も出尽くしたようなので、事務局には本日出た意見を踏まえて、提案が  
あったように各委員に修正案を示す形で進めていくことでお願いしたい。

以上で、本委員会の議事は全て終了した。司会を事務局にお返しする。

事務局：次第7のその他になるが、今一度アンケートの内容を修正できる箇所は修正し、  
12月からアンケートをしたいと事務局では考えていたので、できるだけ早めに第2案を  
送付する。面倒、手間を取らせて申し訳ないが、中身を確認し、意見をいただきたい。  
先程申したように、アンケートは12月から1月にかけて実施し、集計し、3月には結果  
報告を委員に送りたいと考えている。

次回、アンケートの調査結果に基づいた策定委員会を、来年度の5月から6月頃に実施  
の予定をしている。時期が近づいたら案内をする。

それでは、第1回瑞穂市地域福祉計画策定委員会を閉会する。

以上